

「岡山市中心部における旭川水辺空間再生に向けた戦略会議」

議 事 要 旨

-
- 【開催日時】 平成27年5月28日(木) 16:30～17:40
- 【開催場所】 岡山プラザホテル 9F「後楽の間」
- 【資料】 資料－1 旭川水辺再生戦略会議 規約(案)
資料－2 旭川水辺再生戦略会議 設立趣旨
資料－3 現状と課題、目指す姿(方向性)について
資料－4 旭川水辺再生戦略会議の今後の進め方(案)
参考資料－1 「集う・憩う・楽しむ水辺―旭川再生!」の取組み状況
参考資料－2 平成26年11月13日岡山市・国土交通省共同記者発表資料
-

1. 開催挨拶

大森市長：岡山後楽園そして岡山城を中心とした旭川周辺は、岡山の歴史・文化が集積する岡山の顔とも言えるべきエリアであり、回遊性の向上、魅力づくりをキーワードとした中心市街地の活性化を進めている。

- ・今後このエリアをより岡山市民、岡山県民に楽しんでいただくためには、岡山市、国土交通省岡山河川事務所、岡山の経済界、岡山県、岡山大学、一体となって協力しながら、さまざまな利活用、そして魅力あるまちづくりを行う必要がある。
- ・旭川の水辺再生戦略を推進することを目的として、この会議を設置した。今後回を重ねながら具体的な実行に移して行きたいと考えている。

2. 開催趣旨説明

開催趣旨について事務局より説明を行った。(資料－2)

3. 現状と課題、目指す姿(方向性)について

現状と課題、目指す姿(方向性)について事務局より説明を行い、旭川水辺空間再生の方向性について決定した。(資料－3)

4. 意見交換

意見交換の進行役として園田委員が進行

園田委員：水辺空間再生の方向性について、各委員順番にご意見をいただきたい。

大森委員：このプロジェクトには幾つかの意義がある。まず1つは魅力づくりである。中心市街地の活性化の関係で、魅力づくりと回遊性の向上を2つのキーワードに挙げているが、回遊性の向上は、ももちゃりを使った自転車、路面電車、バス等の公共交通機関の利用で対応が出来ると思うが、魅力がないと人は歩いていただけない。

- ・魅力づくりを行うに当たり考えるべき対象として、ここに住んでおられる岡山市民。そして岡山に来られる全国の方。今は非常に海外の方も多くなっている。全国、海外の方

から見た、魅力づくりとは何かについて考えることが重要である。

- ・非常にポテンシャルの大きな場所ではあるが、親水空間というところまでは至っていないのではないか。歩みにくい、休憩場所がないという点を何とかすべきだと感じている。
- ・プロジェクトの意義の2つ目は、国・県・市、経済界、大学、一体となった検討・実行組織ができたということである。各組織が一緒になり、岡山の顔というべき岡山後楽園、岡山城の周辺、旭川の周辺を整備しようという体制がとれたことは非常によいことだと思う。さらに市民やNPOの方などが活躍していただければ、もっとよいことになると思う。

岡崎委員：この場所は歴史的にも、現在住んでいる岡山市民にとっても非常に大事な場所だと思う。

- ・岡山後楽園などは、大事な場所であるがゆえに、荒らさずに飾っておくような感じの時代があった。築庭300年ぐらいの頃から随分変わってきて、現在は岡山後楽園で皆さん親しんでいただこうという形になっている。眺めるだけではなく、そこへ行って楽しむという方向へ進んでいるように思う。
- ・観光客にとっても同様に、いい風景を眺めるだけではなく、そこで様々な体験をする観光になってきていると思う。
- ・この場所の魅力を増すためには、体験型として、一緒に楽しめるような整備が必要だと思う。
- ・今回、水辺空間再生の方向性を提案頂いたが、私も大賛成であり、我々としても協力していきたい。

三村委員：岡山後楽園と岡山城、一体となった観光拠点としての魅力向上という観点から意見を述べる。

- ・現在、岡山後楽園と岡山城との「連携推進協議会」を立ち上げ、様々な取り組みを行っている。
- ・夏に岡山後楽園では幻想庭園、岡山城では鳥城灯源郷を行っているのでその開催時期の統一、動線強化として岡山後楽園の南門から月見橋を渡って岡山城の廊下門までの足元等の装飾、月見橋のライトアップなどの岡山後楽園と岡山城が一体となった取り組みを行っている。これらの取り組みを通じて、いろいろなものを考えていきたい。
- ・課題として、一つは、岡山駅から岡山後楽園、岡山城へのアクセスがわかりにくいという話があるため、例えば岡山駅から岡山城、岡山後楽園への案内の仕方。岡山駅周辺の宿泊施設と岡山城、岡山後楽園を結ぶシャトルバスの運行などを考えている。次に、岡山城と岡山後楽園を結ぶ一番のアクセスである月見橋の北詰及び南門の案内看板の更新も考えていきたい。
- ・もう一つは、岡山城と一体化した景観的な演出ということで、岡山後楽園外苑の月見橋周辺は岡山城の天守閣が非常によく見える場所であるが、樹木が茂り、見えにくい。旭川の河川内の樹木を少し伐採させていただき、眺望を確保したいと考えている。
- ・「岡山後楽園魅力向上委員会」があり、意見を頂き岡山後楽園の魅力向上を図ることとしている。5月18日の委員会において、園外の通路、外苑、岡山城、出石町、このあたりを含めた対策が必要との意見、岡山城の石垣等も景観的に改善した方がよいところがあるとの意見を頂いた。

- ・これらの意見も岡山市に提供させていただき、岡山後樂園と岡山城について一体とした組織・考え方で再生していきたいと考えている。

園田委員：この箇所が、岡山の顔としての位置づけということが非常に重要だと考えている。

- ・経緯として、岡山城周辺城下町が非常に洪水に悩まされており、そのときにこの岡山後樂園の場所が湿地であり洪水時の遊水地のような役割を果たしていた。それを解決する手段として百間川が放水路として整備された。津田永忠による放水路の整備により城下町が守られ、岡山後樂園の場所も安全となり、岡山後樂園の築庭となる。岡山後樂園、岡山城、旭川は、切っても切り離せない関係にあると思っている。そういった歴史を踏まえた取り組みを意識して行っていく必要があると思う。
- ・国土交通省として、洪水に対する安全性という面について状況を紹介する。
- ・現在、旭川、百間川は一つの水系ということで事業を進めている。今年の3月に百間川の河口水門が完成している。次に、旭川と百間川の分流部の工事に着手している。この工事は概ね平成30年度には完了していく見込みが立っている。旭川については、本川の市街地区間の洪水に対する安全性を向上することが、治水上、急務になっている。
- ・治水上の安全度を高める護岸の整備、築堤、これらとあわせて、岡山市が取り組む中心市街地の活性化と連携して、一緒に相乗効果を高めていくことが重要と考える。
- ・石山公園周辺は岡山後樂園と岡山城とをつなぐ位置にあり、なおかつ表町商店街、路面電車の城下の駅、桃太郎大通りに近い位置にある。この歴史的な地区とシンフォニーホールに代表される現代的な空間等をつなぐ非常に重要なエリアだと考える。
- ・一つの例としては、岡山後樂園を見られた方が鶴見橋に行ったときに、その先に何があるのかと思い描くような場になれば、回遊性が高まるのではないかと思う。

園田委員：これまでのご意見の中でお話を伺いたい。

- ・大森市長から、オープンカフェ等を実施するにあたり、国、市の行政機関だけではなく、地元経済界等々の連携も重要とのお話を頂いた。この点について、岡崎委員のほうで経済活動を行う上で、どのようにこの場を見られているか。

岡崎委員：楽しむということではオープンカフェは非常に素晴らしいと思う。

- ・多くの人たちが集まり、賑わいができれば、そこに様々なビジネスチャンスが生まれる。町中いろんな人たちが往来して賑わいが出てくると、岡山の発展のために非常に結構なことだと思う。

園田委員：三村委員からの岡山後樂園と岡山城の連携した取り組みのお話の中で、旭川の空間というものについて、どのように位置づけるか、今の段階で何かお考えがあれば、伺いたい。

三村委員：例えばハードであると手が出せるところと出せないところがある。岡山後樂園を管理しているという立場から、岡山後樂園の周りの園路を整備していきたいと考えている。

- ・当然、岡山後樂園側だけの整備では駄目である。例えば、対岸の岡山城側の園路と色彩、構造そういった園路整備の構造的なものは、ある程度お話ししながら整備を進めていきたいと考えている。

園田委員：ご欠席の岡山大学の地域総合研究センター荒木センター長からご意見を事前にいただいており、紹介する。

- ・旭川は支流も含め淡水魚類等の宝庫で、生物が多様な「都市の中の清流」と考えている。
- ・市民の憩いの場（アーバンリゾート）としても、岡山中心市街地の重要なファクターと考えている。
- ・これらについては、岡山市民への情報の共有だけでなく、世界へも発信していくことが重要である。
- ・大河川になると、川に人が近づきにくくなり、旭川においても課題の一つと考えている。旭川が子供たちにとってすばらしい遊び場・学習の場だということのアピールとともに、開催趣旨にあるとおり、水辺へのアクセスがしにくいことについても取り組んでいくことが必要であると考えます。
- ・旭川は歴史が深い川であり、昔はカキ船が西川に浮かべられていたらしい。そういう伝統文化を復活させたり、歴史的な景観を生かして、川床をつくるなど、川に市民を呼び込める工夫をすとおもしろいと思う。
- ・旭川は市民の飲み水としても恩恵を与えていることについて、岡山市民へ伝えることも重要。

園田委員：ここで、海外・国内の川を活かしたまちづくりの事例について紹介します。

（スライドを使用して「川を活かしたまちづくりの事例」の紹介。）

大森委員：荒木センター長のご意見で、旭川は歴史が深い川だとある。本当にそのとおりである。旭川は、岡山城の築造にあたり、堀にするためこちらへ引っ張ってきたが、無理があり、洪水が多くなったこともあり百間川が必要になった。そして、明治になって水運の拠点となり、そして現代へだんだんと変化をしてきた。こういう岡山の歴史とともに歩んできている川だと思う。

- ・岡山のアイデンティティのようなものを見る上でも、旭川は非常に重要だと考える。
- ・我々岡山市民としては、本当に旭川を大切にしていって、親しんでいく、こういったことが求められているのではないかと思う。
- ・ある程度の年月をかけながら、そしてそれぞれの方の意見も聞き、開かれた中で進んでいくことが重要だと思う。

岡崎委員：親水空間のスライドであったが、旭川は、近くで楽しむというのものもあるが、川そのものを楽しめている川かなと思う。

- ・岡山以上の規模の町で、泳いでもよい川はほとんどないのではないか。カヌーで遊んでいる方もおり、そういう使い方がされている川だと思う。

園田委員：今までの議論を簡単に紹介させていただく。

- ・大森市長から、魅力づくりが非常に重要であるという意見。岡山市民、海外も含めて岡山に来訪される方々への魅力づくりが大事である。
- ・そもそものポテンシャルは非常に大きいですが、親水空間としてはまだまだのところもある。

歩きにくかったり、休む場所がないとのご指摘があった。

- ・2点目として、国・県・市・経済界・大学、これらが一体となって一緒に取り組める枠組みができたということが、大きな一歩である。さらに、今後はNPOとの参画も促していきたい。
- ・岡崎委員から、岡山市民にとって大事な場所であるが、飾っておくだけではなく、楽しむということをさらに進めていく必要がある。観光客も色々な体験をできるような魅力を高めていくということが重要ではないか。
- ・三村委員から、岡山後樂園と岡山城、一体となった取り組みをこれまで以上に進めていく中で、河川整備の中でもそういった取り組みに貢献をすることが重要とのご指摘を頂いた。
- ・今回、旭川水辺空間再生の方向性については、皆さんご了解いただいたということで、今後さらに具体化に向けて連携していきたいと考えている。

5. 今後の進め方

今後の進め方について事務局より説明を行った。(資料-4)

ミズベリング岡山会議について、岡山後樂園及び岡山城周辺において、10月31日(土)に開催予定であり、関係者と協力・連携して進めていくことを確認。

6. 閉会挨拶

園田委員：今回キックオフということで、今後連携を深めて実施してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以 上